

厚物レーザー加工を強化

板厚22mmまで切断可 一貫対応に磨き

各種鋼板や床用建材
二次製品を加工・販売
する関根床用鋼板(本
社・千葉県浦安市港、
関根保彦社長)はこの
ほど、出力4kWのCO₂
レーザー切断機を
導入し、縞鋼板や厚中
板などのレーザー加工
能力を従来比20%強化
した。投資額は1億2
000万円。3kWの
既存機との入れ替えに
よって、レーザー加工
は4kWの2基体制に
増強。自社のレベラー
やシャーリング、ベン
ダーなどと組み合わせ
た切断・穴開け・曲げ
加工のワンストップサ
ービスに磨きをかけ
る。

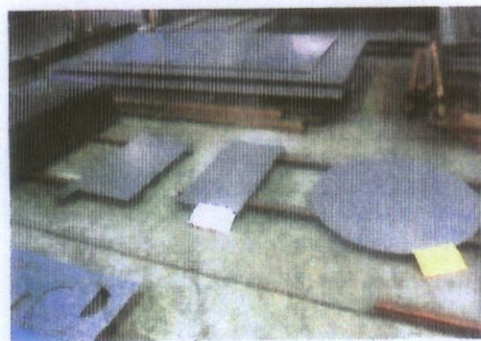
導入したCO₂レー
ザー切断機はアマタ製
の「LC-60300」
III。板厚22mm(縞鋼板
19mm)まで対応し、縞
鋼板は板厚12mmまで縞
目を表にした状態での
加工が可能。複雑な加
工データの作成や現場
での裏返し作業が簡略
化され、リードタイム
短縮につながる。

6段パレットチェン
ジャー「AS-610
20PC」を搭載し、
レーザー切断機との連
動によるスケジュール

運転も可能。5×10サ
イズを4枚ずつ、計24
枚収納する。レーザー
切断機の定盤も3段×
6段と広く、5×10サ
イズの鋼板を4枚並べ
て加工できるため、夜
間の無人自動運転など
で効果的となる。
足元は実需回復を受
け、各加工ともにフル
稼働が続く。市場環境
の好転で、追い風が吹
く中、今期(2018



出力4kWのCO₂レーザー切断機



縞鋼板の厚物加工も拡充

年8月期)は同社独自の「5S」として、「成
功・成果」「スピード・
精度アップ」「スケジュ
ール強化」「システム
化」関根床用鋼板の進
化」の5点を掲げ、顧

客満足度向上に注力す
る。
特に縞鋼板については
顧客側が受注した明
細に含まれているにも
かかわらず、見落とし
て手配が遅れるケース
もしばしば、同様に
特急対応の依頼が来る
ケースも多い。一次加
工から切断、穴開け、
曲げまで一貫対応でき
る利便性の高さを生か
し、こうした即納・複
合加工ニーズにきめ細
かく応えていくこと
で「総合鋼板加工セン
ター」としての地位を
よの盤石なものにして
いきたい考え。